



小児在宅ケア研究会会報 第10号

平成27年8月25日

【第11回小児在宅ケア研究会 年次集会のご報告】

平成27年6月6日(土)に、第11回小児在宅ケア研究会年次集会が、「子どもと家族が希望する暮らしを支える医療・社会を目指して」をテーマに、名古屋大学大幸キャンパスにて開催されました。今年度も154名の方に参加して頂き、1件の活動報告、3件の研究報告、そして講演が行われ、様々な意見交換が行われました。

活動報告は、昨年度(第11期)の小児在宅ケアコーディネーター研修会修了生の方による報告でした。研修会で事例報告をされたときに、研修会参加者から得られた様々なアドバイスを参考に、再度事例に関わられたときの様子を報告されました。その中では、研修会に参加されて学んだことは、家族とお子さんと一緒に過ごす場所ではなく、一緒に過ごす時間が大切であるという事であったと発表されました。



研究報告の1件目は、在宅で医療的ケアをしながら生活しているお子さんのご家族の、レスパイト入院に対する思いを明らかにすることを目的とした調査の報告でした。在宅で医療的ケアをしながら生活しているお子さんのご家族は、レスパイト入院に対し、介護者の負担軽減になるというイメージがある一方で、子どもがさみしい思いをするなどのイメージをもっていたという結果が、報告されました。またレスパイト入院にのぞむ事は、子どもが安全である事、子どもの社会生活が広がること等であったことなども報告されました。レスパイトケアを実施できる施設は徐々に増えつつありますが、医療的ケアをしながら在宅で生活しているお子さんや、そのご家族のニーズに対応できるような、レスパイトケアの必要性を改めて確認する事ができました。

2件目の研究報告は、小児在宅ケア研究会で行っている、小児在宅ケアコーディネーター研修会に参加した看護職の方を対象とした研究報告でした。研修会では、研究会が作成した「小児在宅ケアガイドライン」を用いて研修を行っており、ガイドラインに書かれている「子ども・家族を主体とした医療者との協働」と、在宅ケア移行期における養育に関する、参加者の認識を明らかにすることを目的に行われた調査の報告でした。この研修会に参加する事で、協働に関する認識が高まるという結果や、養育に対する支援の必要性に対する認識は高いが、実際にケアができていない感覚は持ちにくいなどの報告がされました。この研修会に参加された方の多くは、研修を受ける中でそれぞれの体験を振り返る事をくり返す中で、それぞれの看護観を見つめなおす機会となっていたように思われ、研修会が参加される方のお役に立てているのではないかという事を実感いたしました。

3件目の研究報告は、医療的ケアを必要としているお子さんのご家族が、親であると感じる事や自分自身を感じる体験がどのようなものであるのかを明らかにすることを目的に行われた研究の報告でした。ご家族が体験されていた親としての体験は、お子さんのことがわかるという体験と、その時にご自身が感じた気持ちを感じながら、親子としてのつながりを感じていることなどが報告されました。医療的ケアを必要とするお子さんのご家族が、親であると感じる体験や、一人の人であると感じる体験を大切にできる関わりが必要であることを感じました。

最後の講演は、「重い健康問題を抱える子どもと家族の希望する暮らしを支える医療者の在り方」というテーマで、九州大学大学院/小児緩和ケアチームの医師である笹月桃子先生のご講演をお聞きしました。笹月先生は多くの重い健康問題を抱えるお子さんとそのご家族と関わられた経験をお持ちになっておられ、今回の講演の中では、その貴重な経験を紹介していただきながら、医療者としての向き合い方に関し、丁寧にお話していただきました。先生のお話される一つ一つの言葉から、お子さんやそのご家族の思いを知る事の大切さや、その思いを大切に、真摯に関わる事の大切さを改めて

感じることができました。

また、今回参加していただいた方のうち 127 名の方がアンケートにもご協力くださいました。参加者は、名古屋市を中心とした愛知県の方の参加が多く、所属部署は半数以上が病棟看護師の方でした。また、所属施設は小児専門病院の方が最も多く参加されていましたが、一般病院の方の参加が例年以上に多い傾向がありました。経験年数は様々で、ほぼどの年代も同じような人数の方が参加されており、3～5 年目の経験年数の少ない方が多いのが特徴でした。全体の感想に対しては、多くの方が「満足した」又は「少し満足した」と回答されていました。特に笹月先生の講演に感銘を受けた方は多く、お子さんやご家族に対する関わり方を、深く考えさせられたといった感想が多くみられました。

アンケートの中では、今後の研究会活動への要望等も様々いただいておりますので、頂きました貴重なご意見を今後の活動に反映させていきたいと思っております。アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。アンケートの詳細は、資料として同封させて頂きますのでご覧ください。

第 11 回小児在宅ケア研究会年次集会は、多くの皆様のご協力のもと無事に終了する事ができました。ありがとうございました。また来年の年次集会で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

【ホームページ開設のお知らせ】

以前からお知らせしておりますように、2015 年 2 月 20 日より、小児在宅ケア研究会のホームページ (<http://hc-cf.jp/>) を開設しております。ホームページの画面は右図のような画面になっております。まずは、年次集会のお知らせと小児在宅ケアコーディネーター研修会のお知らせを発信しております。『会員のみなさまへ』は、現在どなたでも見る事ができるようになっておりますが、総会の議事録及び会報を見ることができます。『お問い合わせ』のところからは、研究会の入会及び退会に関するお知らせがあります。



一度ご覧いただき、ホームページに対するご意見、ご要望等がありましたら、遠慮なく小児在宅ケア研究会事務局までお知らせください。

【第 11 回小児在宅ケア研究会総会のご報告】

第 11 回小児在宅ケア研究会総会が、年次集会と同日の 6 月 6 日に開催されました。議事の中では、現在の会員数 (143 名) 報告、平成 26 年度の活動報告が行われました。その後、平成 26 年度の決算・会計監査 (案)、平成 27 年度の活動計画 (案)、平成 27 年度の予算 (案) に関する審議が行われ、全ての事項について承認が得られました。詳しくは、同封させて頂きました総会資料をご覧ください。

【あとがき】

今年は非常に暑い夏でしたが、皆様どのようにお過ごしになりましたか。今回の会報では、会員のかたのメッセージをお休みさせて頂き、新たに開設した小児在宅ケア研究会のホームページのお知らせをさせて頂きました。ぜひ一度ご覧ください。また、会報の内容に関しても、ご希望等がありましたら遠慮なく研究会事務局までご連絡下さい。会員の皆様のご意見を取り入れ、少しでも皆様のお役に立つことができるような活動をしていきたいと思っておりますので、どうぞご協力よろしくお願いいたします。

* 会員の方で連絡先等に変更がある場合は、お早めに研究会事務局までお知らせください。ホームページからも手続きをすることができます。(文責：堀妙子)